

(技術名) 施設オクラ栽培の冬春期出荷に適した品種「フィンガー5」							
(要約) 施設オクラ栽培において、「フィンガー5」は露地主力品種「ブルースカイ」と比較して可販収量が多く、 <u>曲がり果</u> ・ <u>イボ果</u> の発生も少ないことから冬春期出荷向け品種として適する。							
農業研究センター・野菜花き班				連絡先	098-840-8506		
部会名	野菜・花き	専門	栽培	対象	オクラ	分類	指導
普及対象地域							

[背景・ねらい]

本県のオクラは春播きの露地栽培が多く、出荷は主に5月以降となっているが、冬春期は単価が高い時期であるため、出荷の前進化のため施設やトンネルを利用した栽培が行われている。施設オクラ栽培については、冬期の低温・寡日照による落花や曲がり果・イボ果の発生等の課題があることから、低温障害などに強く、冬春期出荷に適した品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

1. 「フィンガー5」は「ブルースカイ」と比べ主枝および側枝とも節数が多く（表）、調査した複数年の結果も同様の傾向である（データ省略）。
2. 「フィンガー5」は「ブルースカイ」より収穫開始は遅い（図1）が、総可販収量および総収量は多く（表）、調査した複数年の結果も同様の傾向である（データ省略）。
3. 曲がり果およびイボ果率について、「フィンガー5」は「ブルースカイ」より低く推移し、栽培全期間の発生率は有意に少なく（図2）、調査した複数年の結果も同様の傾向である（データ省略）。
4. 主枝の落花について、品種間に差は無い（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は冬春期出荷の施設栽培として10月下旬～11月上旬播種、1月～6月収穫を想定した作型で実施しており、本成果は当該作型で栽培する農家へ栽培指導の際に活用できる。
2. 「フィンガー5」は、本県露地栽培の主力品種「ブルースカイ」を含む合計7品種から選定した品種である。
3. 試験時の種子の購入価格は「フィンガー5」が「ブルースカイ」よりも安く、その他の栽培に係る経費は同じである。
4. 2017年度はH鋼ハウス（間口8m、奥行き27m、棟高4.5m）、2018年度は角鋼ハウス（間口8m、奥行き30m、棟高4.3m）を用い、土壌は両年度ジャーガル圃場で実施した。
5. 栽植様式は、畝幅160cm、株間30cm、条間40cmの2条植、1穴3本仕立。主枝を切り戻し後は側枝を1株2本仕立とした。主枝の切り戻し時期は、草丈や側枝の発生状況により判断するが、側枝発生前に切り戻すと側枝が発生しないこともあるため、必ず側枝発生後に行う。本試験では側枝の収穫開始後に切り戻した。
6. 肥培管理は露地栽培を参考に行ったが、施設は露地と栽培環境が異なるため、施設栽培に適した肥培管理法について今後検討を要する。
7. 低温期（主に1～3月）の側窓の開閉には自動巻き上げ機（商品名：くるファミ AceⅢ）を用い、側窓開閉時の設定温度は30℃とした。それ以外の時期は基本的に側窓を全開した。
8. 立枯性病害やセンチュウ等の発生が懸念されるため、播種前には土壌消毒や粒剤処理等の対策を行う。

[具体的データ]

表 生育および収量の比較（2018年度）

供試品種	主枝 ^z			側枝 ^y			総可販収量 (kg/10a)	総収量 (kg/10a)
	茎長 (cm)	節数	茎径 (mm)	側枝長 (cm)	節数	側枝茎径 (mm)		
フィンガー5	142.6	17.8	14.4	72.1	19.2	11.2	4,188 (162) ^x	5,166 (141) ^x
ブルースカイ	130.3	12.2	13.4	61.4	12.9	11.6	2,579 (100)	3,669 (100)
t検定 ^w	**	**	ns	ns	**	ns	**	*

2018年11月2日播種、翌年6月20日栽培終了（切り戻し：ブルースカイ 2/26、フィンガー5 3/4 主枝調査：2/25 側枝調査：6/21）

z：節数は収穫済の節まで。茎径は地上1cmの長径。

y：節数は開花節まで。側枝茎径1～2節の中間の長さ。

x：括弧内は、同年度のブルースカイを「100」とした場合の割合。

w：スチューデントのt検定。**は1%、*は5%水準で有意差あり、nsはなし。（生育調査はn=36～45、収量調査はn=3）

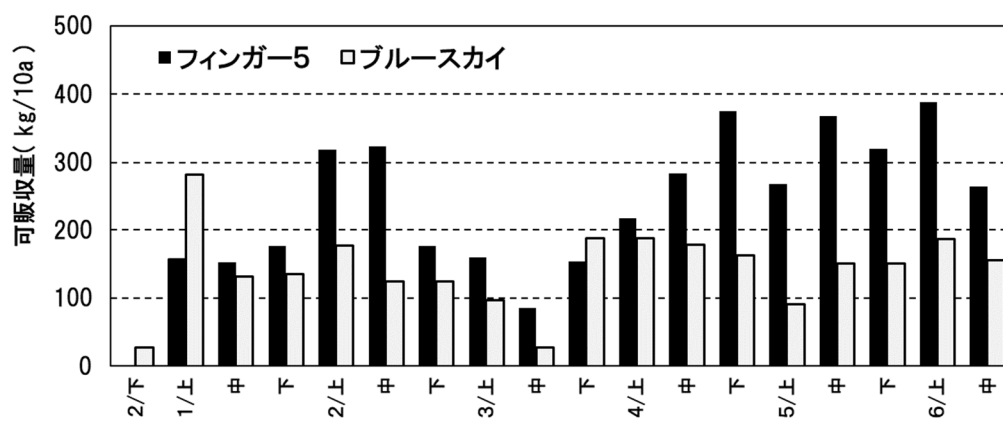


図1 旬別可販収量の推移（2018年度）

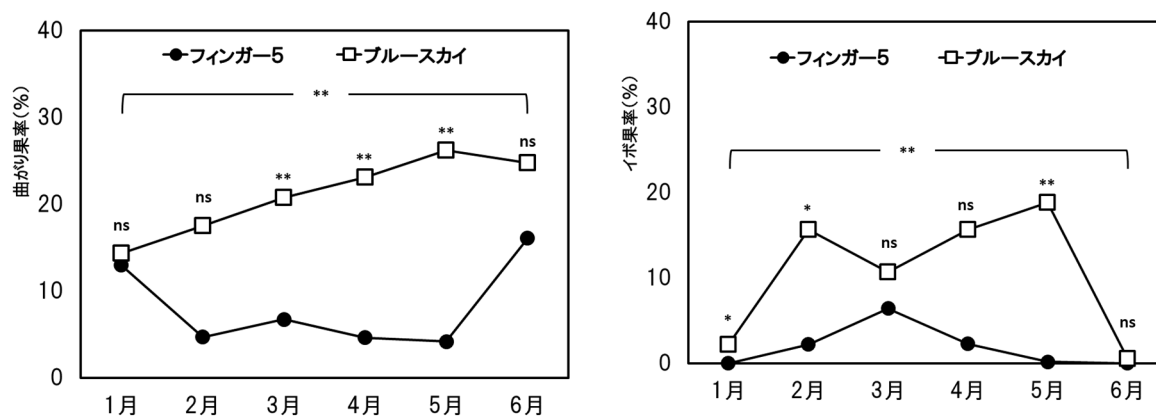


図2 曲がり果率（左図）およびイボ果率（右図）の推移（2018年度）

曲がり 0.6mm以上、イボ果は1個以上発生したもの。個数より算出。

アークサイン変換後、スチューデントのt検定により、**は1%水準、*は5%水準で同一月間に有意差あり、nsはなし(n=3)

[その他]

課題 ID: 2017 農 004

研究課題名: 施設を利用したオクラの早期出荷技術の確立

予算区分: その他（拠点産地自走支援事業）

研究期間（事業全体の期間）: 2017～2018年度(2017～2019年度)

研究担当者: 登野盛博一、中村朝子、又吉美緒、宮城悦子、玉城盛俊

発表論文等: なし